



ARTIST NO KOSODATE? / Interview / No.04

ARTIST
NO
KOSODATE?

アーティスト
の
子育て

01 住まい 神奈川県

02 年齢 30代

03 性別 女性

04 子どもの数 1人

05 子どもの年齢 10歳

06 作家活動以外に仕事をされている方は、
可能な範囲でお仕事の内容を教えてください。

10年ほど前に kotte というアートを学校を立ち上げました。これは私の美術活動でもあるのですが、2008年頃から当時の学生作家たちに声を掛けて、現代美術会議やアーティストトークを継続して企画していたことが原点となっています。制作と発表だけでなく、美術を考える場が必要だと思い設立しました。コロナ禍で開催を見送ることもありました。2020年より、アーティストや批評家、コレクターと集まって特別授業をしたり、定期的に kotte で美術展覧会を開催したり、茅ヶ崎市内の保育園でアーティストを呼んで子どもたちと制作した彫刻を設置したり、デザインの学生と一緒に空間デザインをしたりと、kotte を通じてアートを取り巻く様々な人々と協働して活動しています。

スケジュールとしては、平日に講義のためのリサーチや自分の制作を行い、週末の日中に制作と美術史の授業を行い、夕方からは都内などへ展示や集まりに行けるようにしています。制作の理論や美術史を教えることも、私自身の学びにもなっているのですごく楽しいです。

07 保育園・幼稚園などの保育サービスを利用していますか？
または過去に利用しましたか？

はい いいえ

08 (07)が「はい」の場合、預け先は？

保育園 通常保育 一時保育 認可 認可外 幼稚園 ファミリーサポートセンター
 その他

認可保育園の0歳クラスに4月から入園させたいと思い、お金はかかりますが、その前の2月、3月は、認可外保育園に通わせました。待機児童の問題があって、認可外の保育施設を利用している実績があれば、認可保育園に少し入りやすくなりますからね。

でも、市の担当者に様子を聞きに行くと、第1希望の認可保育園に4月入園を希望している0歳児は、すでに10数人いるから難しいよと言われたんです。預けられないと働けないから、生活できなくて困るなど心配していたのですが、幸い希望どおり入ることができました。

保育園を利用するようになってからは、ものすごく楽になりました。当時は働きに出ていたのですが、その後アートを学校を主宰するようになってからもとても助かりました。

09 お子さんをもった後、作品制作時間はどう捻出していますか？〈複数回答可〉

- 保育園や学校に行っている間
 睡眠時間を削る
 子どもが寝てから
 早朝
 実家・親に預ける
 配偶者に預ける
 仕事の合間
 仕事が休みの日
 捻出できない
 その他

美術関係で人と会ったり展示を見に行ったりする時は、実母に子どもの世話をお願いしています。制作時間を確保するために子どもを預けるのは、締め切りの1、2日前にどうしても無理だった場合だけで、普段は制作は日中か夜にしています。

10 一日のうちで、①育児にかかる時間、②作家活動にかかる時間、③作家活動以外の仕事にかかる時間は、お子さんをもつ前と現在とではどう変わりましたか？おおよその時間を教えてください。

- ① 育児：0時間 → 平日：5時間 休日：1日中
 ② 作家：10～12時間 → 0～3時間
 ③ 仕事：10時間 → 8時間

保育園では朝から18時頃までお世話になりました。小学校に上がってからも3年生までは同じ時間帯まで学童保育を利用していましたが、4年生から待機児童となってしまいました。今は学校が終わって15～16時くらいに帰宅しますし、夏休みも預けられないので、保育園児だった時よりも一緒にいる時間が長く、自分が自由に使える時間が少なくなっています。

11 お子さんをもった後、作品制作の環境(場所)は変わりましたか？

場所は自宅で変わっていません。

12 お子さんの存在が作品に影響し、作風や扱う素材、制作方法などは変わりましたか？

制作に対する向き合い方は、時期によってかなり変わりました。

子どもができるまでは、早描きの具象画や映像作品を作ったり、パフォーマンスやイベント企画をしたりしていました。例えば、大自然の獣に扮して太鼓を叩いたり、ジャンバラヤを作ってカフェカウンターから投げたりしていましたが、「お母さんになったらそんな恥ずかしいことできない」と自然な流れで真面目になっていきました。出産して3、4年は、制作のことなんて1ミリも考えられませんでした。子育てマインドになっているので、アートはやらない宣言もして、制作は子育て期に一旦スパッとやめました。

娘が1歳になった頃にアートを始めたのですが、まだまだ子育てや日々の暮らしを大事にしようと思っていて、外部とかかわって自分の作品を発表していく作家活動なんてできるはずがないと考えていました。

その後、子どもが4歳になった2016年頃から、授業でのデモンストレーションのために油絵技法を組み合わせ構成していく方法を発案し、抽象絵画を始めました。また、子どもが遊んだ後の折り紙を捨てるのがもったいないので再利用してコラージュしたり、ドローイングとして抽象的なかたちの切り絵作品を作ったりするようになりました。

子育て中のアーティストにとって、子育てマインドから制作マインドに切り替えること自体が難しいと思うんですね。乳幼児期はどうしても子どもから目が離せない。ちゃんとおっぱいを飲んでるか、ごはんを食べてるか、うんちは出たかというような、命にかかわることを常に常に気にしていないといけないので、制作なんて考えられません。そのために育児休暇があるわけですし。私の場合は、4～5歳までは子どもがしょっちゅう熱を出して、保育園から電話がかかってくる状況でした。そんな中で、抽象絵画だったら少しずつ制作できたんです。ただ、当時は子育ての環境を考えるにあたって、美術よりもむしろ建築やデザインに夢中でした。建築は本質的

には美術と似ている部分もありますが、美術とは違って環境に最適化します。住環境にはどういった理論があるのかを、デ・ステイルやバウハウス、ル・コルビュジエなど、近現代の建築から学びました。そして、アーツスクールでも空間デザインや施工の仕事、また保育園で家具デザインやペイントなどをしました。

その後、生徒さんたちとの交流を通して、もっと現代美術のこをを中心に伝えていこうという気持ちが出てきました。私の作品を期待してくれたこともあって、2019年の暮れに、現代美術作家として活動を再開しようと決意し、企画や展示など、周囲との関わり合いが増えて今に至ります。

それから、2020年には保育士をはじめ保育に携わる方々と一緒に「保育者アート会議」という意見交換会を企画しました。幼児保育や学校教育の現場にもっとアートの発想や個を尊重する考え方を導入できないかという試みです。

このように、私の活動には子どもの存在が影響していますが、美術に子どもを介在させるというのはとても難しいことで、私は子どもを作品制作のテーマにはしていません。子どもはケアの対象として見られがちです。だから、子どもをテーマにした作品は、慈善的なメッセージや、作者のバックグラウンドを強く発信してしまい、一定の鑑賞者しか寄せ付けなくなってしまう恐れがあるからです。

ですが、今回のインタビューや、アフターマティブ・アクションとして業界全体の仕組みを変えていくことについては大賛成で、積極的に賛同や協力をしていきたいと思っています。

13 コロナ禍が子育て中の制作に何か影響を及ぼしましたか？

緊急事態宣言による学級閉鎖や、学童で陽性者が続出したことなどから、子どもは頻繁に自宅待機となりました。そんな時は、普段の家事に加え子どもの相手などしなければならず、夜は疲れて一緒に寝てしまったりして、制作時間が確保できないことが多かったです。

教室運営にもコロナ禍が大きく影響しました。2年前の自粛期間中は教室を閉めざるを得なくてオンライン開催になりました。最近は感染対策をしながら対面で開催しています。

作品制作に関する影響としては、堂々と引きこもることができるようになりました。無理にたくさん予定を詰め込む必要もなくなりました。SNSを使って、定期的に作品の進捗やアーカイブを残すなど、誰かと会わなくてもできることに費やす時間が増えた気がします。

14 子育て中の制作において、どのような工夫をしていますか？

基本的に制作は昼間しているんですが、それだけでは終わらず夜も制作する時は、書斎兼小作品制作部屋で、子どもを寝かしつけながら、手元だけ明るくして作業しています。子どもは私の姿が見えなくなると不安になってしまうので、部屋の模様替えをする時も、どうやったら安心して寝られるかを考えています。

それから、最近では子どもをよく展覧会に連れて行くようになりました。例えばあいちトリエンナーレ2019の「表現の不自由展」は入場するには抽選だったんですが、子どもは列に並ぶのも楽しんでいました。2回とも抽選に外れて大泣きしたんですけどね（笑）。その後も展覧会に行くのは好きで、私が一人で行ってしまうと文句を言います。友人が活躍している展覧会に行くのは、遊んでもらえるので特に楽しみにしています。

でも、作家活動となると、もっと今の社会や美術に対しての強いアクションが必要です。社会的な事象や哲学や科学を学んでいく必要があって、どうしても子どもと一緒ににはできない。一人になる時間がないとできません。

15 子育て中の制作について身近に相談できるアーティスト仲間等はいますか？

同じく子育て中の作家友達には、アーティスト活動について相談したり、最近のアートの動向などについて話したりしています。制作時間を確保することや、活動に気持ちを戻していくことの大変さも共有できる仲間です。お互い何とか励ましあって前向きに頑張っているところです。

16 今現在、作家活動をしたら、どのようなことをやってみたいですか。

リサーチ 制作 展示 ワークショップ アーティスト・イン・レジデンス その他

アーティスト・イン・レジデンス以外は現在もやっています。アーティスト・イン・レジデンスも、通える範囲や作品形体も工夫しながら、可能な限り選択肢に入れてみたいです。あとは、現代美術における例えば絵画について、メディウムについてなどとトピックを立てて、アーティストとディスカッションをしたり冊子にしてまとめていったりと、美術研究、批評の自主企画もしていきたいです。

**17 作品制作を継続するためには何が必要だと考えますか？
特に優先順位の高いと思うものを2つ選択してください。**

家族の協力 ひとりの時間 収入 美術に関する仕事への就労 仲間の存在 その他

子どももしっかりしてきたので、今はやりたいと思う強い気持ちが一番大切だと考えています。

**18 FAS にどのようなサービス・支援・配慮があれば、
子育て中の作家活動がよりスムーズにいくと思いますか。**

最近、森美術館で開催された Chim ↑ Pom 展では、入り口付近に、新作アートプロジェクトとして託児所が設けられていました。会期中の毎週金土日曜日、生後3か月から小学6年生の子どもを、予約制で無料にて預かるというものです。斬新だし助かるし、すごくいいなと思いました。美術館が大々的に託児所を設けるといのはまだ少ないですね。保育士さんがいて子どもを預けられると、集中して展覧会を見ることができます。子どもと一緒にだと、作品を触らないようにずっと手をつないでいないといけなかったりしますから。まあ、子どもがいたらいいで、一緒に作品鑑賞できる尊い時間だとは思いますが。

ただ、FAS は小規模だし子どもと一緒にでも気兼ねなくいられるので、とくに託児はなくとも展覧会は見られます。それでも、映像作品の場合は、子どもがすぐに飽きてしまって全編見られなかったりするので、託児があると助かります。現代アートは考えさせるものが多いので、頭を使います。

あと、これは FAS への要望ではなく、作家活動全般に当てはまることなんですけど、時間帯がうまく合わないことがあります。子どもがいると、生活リズムが早寝早起きになりますが、作家活動をしていると深夜まで飲んで交流したりすることもあるって、そうした朝型の生活がしづらいんです。例えば、展覧会のオープニングパーティーは大概夜に始まるので、出席するには子どもを預けなきゃいけなくなりますが、身内に子どもの世話を頼むのもせいぜい月1、2回かなと遠慮してしまいます。

一方で、子育て中だからということで周りに気を遣わせたくないという気持ちもあります。誘ってほしいし参加したいのに、子どもがいるから断らざるを得なくて、悔しい思いをしています。でも、こうした細かいことを子育て中のアーティストが参加しやすいようにするには、社会全体のシステムごと変えなきゃいけないからしょうがないのかなとは思いますが。

小さい子どもをもつ作家は、都合を聞くと朝ならいくら早くてもいいよって言います。午前中の方が動きやすいですね。例えば、都内での予定が昼過ぎにあると、子どもが学校から帰ってくる時間やお迎えの時間に帰宅の間に合わない。うちの場合だと、子どもに留守番をさせなくちゃいけないので、なるべく避けたい。でも相手に気を遣わせるのも申し訳ない。板挟みです。そうしてチャンスを逃すことがとても多いので、そういったことを話せる仲間は欲しいですね。

子育てを機に制作を中断されていた時期に焦りはありましたか？

焦りはなかったですが、一人ぼちな気持ち、置いてきちゃった仲間がいるという感じかな。作家活動は、志をもって美術をもっと面白くしようと思っている仲間たちと共に過ごせることが醍醐味なのですが、そういう交流

をもたないでいた時は、少し寂しい気持ちでした。

子育て中のアーティストがキャリアを築くにあたってどんな困難がありますか？

アート業界におけるキャリア形成の強い部分を占めているのは、海外留学とかアーティスト・イン・レジデンスだと感じます。子育て中のアーティストはどうしても不利ですね。私はレジデンスは半ば諦めています。子どもが中高生になるまでは、自分の選択肢に入っていません。ただ、短期のレジデンスや、夏休み中で子どもの預かり先があれば可能かもしれません。自分のキャリア形成と、子どもと過ごす時間とのバランスを引き続き考えていかなければいけません。

私が子育てをしている間に、アーティスト仲間がアーティスト・イン・レジデンスを経験したり、展覧会を開催したり、みんな立派になったなど感じます。子育てのせいにしたくはないんですけどね。自分はその経験をもてなかったから、悔しい思いはかなりあります。だから今から頑張ろうと思って巻き返しています。

子育て中の作家活動の大変さの背景には、ジェンダー格差もあるのではないかと思います。ジェンダー格差の根幹にある男尊女卑の考え方は、妊娠、出産、育児を優先する女性の行動も軽視します。女性が妊娠、出産、子育てによって身軽に動けないのは怠慢ではありません。働きたくても心身がついていかず、女性自身も社会から追放されたような気分になっていることがあります。また、生まれてくる子が健康とも限りません。そうやって自分の身体や子どもに対して丁寧に接しているだけなのに、このことが男性に共有されず（生理の問題も含めて）女性特有の悩みになっているのが問題です。

それに子どもの有無も事情は様々だと思います。男性と同等のキャリアや活動を優先するために、女性が妊娠や出産を諦めるというケースもありますね。女性にとって子どもという存在がこんなにもセンシティブなものになってしまっているのは人権問題だと思うので、軽視せずに男性側の感覚がアップデートされるといいと思います。

また、女性作家は出産したら活動しなくなる、というひと昔前の先入観がまだ残っていますが、これは、育児や介護の多くを女性がこなしている日本の現状と不可分だと思います。男性がもっと家事や育児を中心的に担うようになると変わってくるのでしょうかね。

男女問わず作家の背後には家族がいて、その協力があって作家活動が成り立っていることを知ってほしいです。オンラインや対面での集まりも、海外のように飲んだり食ったりしながらリラックスした状況で日中に行って夕方までに終われば、（飲み会は好きですが）飲み会自体ももしかしたら必要ないのかもしれませんが。働き方自体もいろいろと工夫することにより、男女間で働きやすさの格差がなくなっていけばいいと思います。

19 お子さんの手が離れたら、どのように活動をしていきたいですか？

アーティスト・イン・レジデンスに挑戦したいし、海外で生活してみたいとも思います。

ただ、自分が立ち上げたアートスクールを放り出すつもりはなく、100年先まで続いていく学校として、育てていきたいと考えています。

子育ては自己犠牲によって成り立っているとか、母親は家事や看護を優先するべきという少し昔の社会の前提に対して、疑問を感じてきました。子育て中でも作家活動を諦めているわけではありません。私は自分の人生も大事にしたいから、制作や交流時間を工夫して捻出しようと思っています。子どもには、私にとっての仕事の重要性や、好きなことを真剣に学び向上していくことについて丁寧に話して聞かせながら、一緒に生きていきたいです。



ARTIST NO KOSODATE? / Interview / No.05

ARTIST
NO
KOSODATE?

アーティスト
の
子育て

01 住まい 神奈川県

02 年齢 40代

03 性別 女性

04 子どもの数 2人

05 子どもの年齢 9歳、5歳

06 作家活動以外に仕事をされている方は、
可能な範囲でお仕事の内容を教えてください。

20代はアルバイトをしていましたが、結婚を機に将来のことを考え、29歳で正社員の仕事に就いて7年ぐらい働きました。この間、子どもを二人出産しましたが、子育てや制作との両立が難しいことから転職し、派遣の仕事をして3年くらい経ちます。

正社員の仕事はイラストレーターで、都内の広告製作会社に勤めていました。産休と育休が取れたので、その点は助かりました。ただ、通勤に1時間半から2時間かかるところだったのと長時間労働が常態化していたので疲れてしまい、平日はほとんど制作できませんでした。職場の近くにお寺や現代美術のギャラリーがあったので、可能な限り昼休みを使って見に行ったりして、育児と仕事だけで1日を終わらせまいと必死にもがいていましたね。

この頃は、思うように制作できなくて焦っていました。年に1度ギャラリーのグループ展に呼んでもらっていたんですが、ヘトヘトさが滲み出た絵しか出せなくて、不甲斐なかったです。入社して2年ほど経ち妊娠した頃には、正直これを機によく休めるという気持ちでした。

現在は、派遣で大学事務の仕事をしています。平日週5日、プラス土曜は隔週で半日働いています。多いようですが、年間で言えば長期休暇もあって、休みは意外と多いです。普段の勤務時間は9時から17時までですが、夏休み中は10時から17時までと1時間短くなります。給料は下がりましたが、以前の正社員の仕事よりは、子どもが急に熱を出しても休みやすくなりました。通勤時間が徒歩10分程度なのも助かっています。

作家活動のために仕事を休む場合、アルバイトをしていた時は、休みも取りやすく、不便を感じていませんでしたが、転職して正社員になった時には、最初は応援してくれたものの、最終的には「会社のためにならないんだったらちょっと…」という雰囲気になってしまい、思い出すと辛いです。

作家活動を続けるのに、勤め先で肩身の狭い思いをされていたんですね。

そうですね、周りのせいというより、自分で自分の首を絞めてしまっていたのかもしれないのですが、どこにいても居場所がない感じで、ずっと心に引っかかっていました。もっと売上げが出せれば、こんなに肩身の狭い思いをせずにはやれるのかなとも思いましたが、同時に、作家としてのキャリアも積みたいし、子育ても悔いなくやりたいしと思っていると、全部が中途半端だという気持ちに陥ります。決して全てをきちんとできる訳ではないということは頭では分かっているのですが、実際、子育てや家事が一番雑になってしまって、子ども達には申し訳なかったです。

30代は社会的なスキルがないまま、どんどん歳だけ取っていく感覚にとらわれ、自分のこれまでの選択に自信を失っていました。今も、まだその感覚にとらわれているところは大きいですが、自分の考え方の癖と折り合いをつけながら、できることを増やしていきたいと思っています。

**07 保育園・幼稚園などの保育サービスを利用していますか？
または過去に利用しましたか？**

はい いいえ

08 (07)が「はい」の場合、預け先は？

保育園 通常保育 一時保育 認可 認可外 幼稚園 ファミリーサポートセンター
 その他

上の子も下の子も保育園に行っていました。1歳児クラスに4月からの入園を申し込んだのですが、認可保育園は倍率が高くて落ちてしまいました。そのため育休を半年伸ばしてもらって2歳になるまでの残りの半年を認可外保育園に預け、仕事復帰しました。家の近所の認可保育園の枠が空いて移れたのは2歳児クラス4月だったので、認可保育園に対しては1年間の待機期間がありました。二人ともです。

上の子と下の子は4歳離れていて、その間に待機児童対策で世間的には保育所も増えていた気がするのですが、住んでいる家の近くでは増設されなかったため、最初から認可保育園に入れるのはやはり難しい感じでした。下の子の時には、0歳から保育園に入れようと思えば、兄弟加点で少し入りやすかったのかもしれませんが、育休の間に制作をしたいという気持ちもあって、こちらの希望のタイミングで入れないなら待とうと決めました。

早生まれかどうかで認可保育園の入りやすさが変わってくるというのは、産んでみて初めて分かったことで、ちょっとショックだし、びっくりしました。はっきりとは覚えていませんが、私の住んでいる所では当時、待機期間が半年でポイントがプラスされる制度がありました。1歳の誕生日まで育休をとり、その後一番枠が増えやすい4月を狙って認可保育園に入れたい場合、4月から秋頃までに生まれた子は加点された状態で新年度応募に挑めたんです。1歳児クラスの入園は育休が切れて子どもを預けたい人が多く、保育園が最も混み合うタイミングなんですけど、生まれ月によってポイントの付き方が変わり、その1点があるか無いかで明暗が分かれるのは、ちょっと不公平だと思っていました。

09 お子さんをもった後、作品制作時間はどう捻出していますか？〈複数回答可〉

保育園や学校に行っている間 睡眠時間を削る 子どもが寝てから 早朝 実家・親に預ける
 配偶者に預ける 仕事の合間 仕事が休みの日 捻出できない その他

私の性格上、毎日ちょっとずつ制作するというのが苦手で、展示のスケジュールが決まったらそれに合わせて無理してでも直前に集中して制作する方がやりやすいんです。展示が近づいてきたら、寝る時間を削り、家族に任せられそうだったらお願いし、あとは保育園で土曜も預かってもらいます。子どもがどうしても行きたくないという時は夫が見る場合もあって、都度調整です。同じく画家である夫が展示を控えている時は、お互い譲り合ってやっています。

作品を描いている時間は長いですが、一旦完成したら設営はだいたい1日で済みます。設営作業をする時は、平日子どもが学校や保育園に行っている間に自分の仕事を休んで行うこともありますし、土日に夫に子どもを見てもらっている間に行うこともあります。制作時間は、なるべく日々少しずつ取って進めるように心がけていますが、どうしても間に合わない時には自分の仕事を休んだりして何とか捻出しています。正直、罪悪感もあるし、気持ちが揺らぐことがありますね。

ご両親はお近くにお住まいですか？

私の両親は電車で1時間ぐらいの距離に住んでいて、元気な頃はよく面倒を見てもらっていたのですが、コロナが流行る直前に、父は死去、母は体を壊してしまって、頼る先という感じではなくなりました。今は母の手伝

い等のため実家に行くことが多いです。

夫の両親は隣駅の距離に住んでいるので、頼りにさせてもらっています。コロナ禍を挟んで以前ほど頻繁な行き来はないものの、基本的に制作活動に理解があり協力的でいてくれるため、それはとても助かっています。

**10 一日のうちで、①育児にかける時間、②作家活動にかける時間、③作家活動以外の仕事にかける時間は、お子さんをもつ前と現在とではどう変わりましたか？
およその時間を教えてください。**

① 育児：0時間 → 平日6時間、休日終日

② 作家：平日0時間、休日3～4時間 → 平日1時間、休日変則的

③ 仕事：15時間30分（移動時間含む） → 8時間

11 お子さんをもった後、作品制作の環境(場所)は変わりましたか？

場所は自宅が変わっていないのですが、子どもが大きくなるにつれて子どもの物が増えて、私も夫も絵は増えるので、どんどん場所が狭くなっています。

12 お子さんの存在が作品に影響し、作風や扱う素材、制作方法などは変わりましたか？

私は日本画を制作しているのですが、制作方法もテーマも変わりました。

制作方法は、まとまった時間をとってやらないと集中できないタイプだったんですが、そうは言っても細切れで時間を使わないと現実問題として終わらないので、以前よりは毎日少しずつ制作しよう意識するようになりました。上の子どもが小さい時は、それでもまだ昔のスタイルを維持しようとしてたところがあるんですが、二人目ができて余計時間がなくなったので、変化を余儀なくされました。

テーマについては、二人目の子どもを妊娠してすぐ、自分の母親が倒れたり、お腹の子も流産の可能性があると言われてたり、生と死に直結する出来事が同時にすごく身近に起こったことに影響され、絵がガラッと変わりました。人間の営みや、死生観を表現したいなと思い、生まれたり死んだりしながらも、大きなうねりを持って繋がっていく命を意識した作品を描き始めました。

あとは現実的な話で、時間がない中で完成させなきゃいけないというところから、色数を絞るという方法にたどり着きました。岩絵の具は基本混色をせず、いろんな色の絵具を1回1回チョイスしながら画面上で色を合わせていくんです。それまではたくさん色を使っていましたが、選ぶ時間を減らして画面に素早く出したいという理由から、モノトーン寄りになっていきました。そうすると手数が減ると、ここは何色を置こうかと絵の前で悩む時間が減って作業効率上がるんです。それに、時代が変わっても命が繋がっていくという普遍的なことは、モノトーンでの表現が向いてるなという直感もあって、それらがちょうど噛み合い現在の表現に繋がりました。

13 コロナ禍が子育て中の制作に何か影響を及ぼしましたか？

一番はやっぱり、子どもの世話を夫以外に頼みづらくなったということでしょうか。子どもが騒いでいる状況でも描く、というのはなかなか難しかったです。作品の内容については、私はそこまで影響を受けていなかったと思います。

14 子育て中の制作において、どのような工夫をしていますか？

悲観的になりすぎないように気をつけています。子どもが大きくなってきて、あと数年すれば中学生、高校生だと思うと、お金のかかり方が気になってきますし、子ども部屋も足りないし、自分が制作することでかかるお金

を子どもに回した方がいいんじゃないかと思うことも多いです。

でも、制作を続けられなかったのは子どものせいだと将来思ってしまうことが一番嫌なので、子どもを言い訳にしないように、今制作をやりたいならやっぱりやるようにしよう、手を尽くして続ける道を探ろうと、前向きになれるように毎日気持ちを軌道修正しながら生きることを心がけています。

展示の依頼をいただけることは、一番の励みになるし、自分が制作する意味を強く感じられてありがたいんですが、もし依頼が何もなくなっても、それでも作りたいと言える人でありたい。制作への意欲が日々のあれこれにかき消されてふっと途切れてしまわないように、とにかく小さな調べ物や興味のある本を読んだりするところからモチベーションを上げて、自分の中で、いつやるぞってなってもちゃんと着火できるようにしています。

15 子育て中の制作について身近に相談できるアーティスト仲間等はいますか？

一番は夫でしょうか。保育園であった日常の出来事も、不安に思うことも口に出すようにしています。ただ彼は彼で制作の時間が欲しいので、全面的な協力を得られるわけではないけれど、バランスをとりつつやっています。夫は家事育児に協力的で、夜ご飯を作ったり、スーパーに週に2・3回買い出しに行くということはやってくれているのでありがたいです。

16 今現在、作家活動をするとしたら、どのようなことをやってみたいですか。

リサーチ 制作 展示 ワークショップ アーティスト・イン・レジデンス その他

アーティスト・イン・レジデンスをやりたいのですが、実際には今は子どもと離れることが難しいので今は無理ですね。FASに通って制作して、帰ってきたら子どものことをやるというような滞在の仕方なら手が届きそうかなと思うものの、仕事との両立を考えるとそれも理想。だから、今は自分の生活ペースに沿ったリサーチ、制作、展示に力を入れたいです。

17 作品制作を継続するためには何が必要だと考えますか？ 特に優先順位の高いと思うものを2つ選択してください。

家族の協力 ひとりの時間 収入 美術に関する仕事への就労 仲間の存在 その他

全部必要ですが、お金があれば仕事を調整するとか、制作以外の仕事をしないという選択もできると思います。お金があれば家族も説得できそうですね。まわりが応援してくれてないと何も始まらないと思います。(あと、〇はつけられないけれど、) 仲間の存在も大事ですね。普段はなかなか会えないけれど、制作を頑張っている様子を見聞きすると励まされます。それぞれやっぱり立場がちよっとずつ違うから、若い頃のように、悩み聞いてよとは気軽に言えないし、時間を使わせるのも申し訳なくて、どこまで頼っていいのかのバランスが分からなくなってしまうところもありますが、気兼ねなく話し合える人が身近にいれば心強いと思いますね。

18 FAS にどのようなサービス・支援・配慮があれば、 子育て中の作家活動がよりスムーズにいくと思いますか。

ゆとりのある搬入・搬出スケジュールはすごく助かりますね。すぐできそうな中では一番ありがたい。あと、情報交換や相談ができる場があれば、行くかどうかはともかくとして、あるというだけで拠り所になるかもしれません。公民館でやっている子育て支援プログラムもそうでしたが、話せる場所があるのは確実に励みになりましたから。対面よりもオンラインの方が子育て中は利用しやすいでしょうね。他の作家が子育て中にどうしているかを考えていたかは興味があるので、そういう機会があれば、聞きたいです。

それから、これはすぐに実現できるような話ではないかもしれませんが、作品の保管場所の仲介をしてくれる

サービスがあるとすごく嬉しいです。例えば、作品を保管できる藤沢市内の空き家やお部屋を、格安で紹介してもらえると助かります。子育てをしていると、制作スペース問題が大きいのです。自宅の外にアトリエや倉庫を借りることができれば一番いいのですが、そこまで金銭的な余裕がなく、現状ではアトリエと倉庫として自宅の2部屋を潰しています。子どもも大きくなってきたので、せめて倉庫の部分だけでも外に確保できたら、子ども部屋として使えてよいのですが。

日本画は湿気に弱いので、工業用の倉庫や道路沿いにあるようなコンテナ型のトランクルームではちょっと心配なんです。害虫も気になりますし。美術用の空調が管理されている部屋が一番いいのですが、それを借りるほどのお金がない場合は、いかにも外気が入ってくるような所よりは、人の住宅の一部屋の方が安心です。水道もエアコンもなくていい。ただ置く場所があって雨風しのげて、時々戸を開け閉めして風通しできるという状況であればいいんです。古くても大丈夫で、リノベーションやリフォームも必要ありません。すごく狭い部屋でもアパートでもいいので、格安で利用できると制作活動を続ける上で助かります。その延長でアトリエも格安で貸してもらえたら最高ですけど。

保管場所のなさを考えると、気持ちが暗くなるんですよ。作っても場所を狭くするだけなのかなって悲しくなるので、スペースがあると、作家活動を肯定されている気持ちになります。

それから、私自身が苦手だからというのものもあるんですが、作品の搬入時に何かを組み立てたり、測ったり、設置するというような作業を気軽に頼める大道具チームがいれば嬉しいです。作家によっては自分で全部できる人もいれば、自分ではできなくても作家仲間に頼める人もいると思うんですが、そのようなツテに自信がない人が頼めるチームがあればいいなと思います。

都合が合えば作業を安価でお手伝いできますよっていう人の登録名簿を FAS がもっておいて、例えば、〇月〇日に屏風の設置作業をお手伝いいただける人募りますという情報を流したら、行ける人が手を挙げる。そういう仕組みをイメージするといいでしょか？

そうです。FAS は仲介するだけで、あとは当事者同士がやり取りする感じ。最初は A さんが手を挙げたけれど、もし予定が合わず来れなくなっても、すぐに B さんを紹介してもらえると、と言った臨機応変さがあるとなおいいですね。

私の場合、大きい絵の搬入時は夫に手伝ってもらったり、展示場所のスタッフの力を借りたりして何とかしのぎましたんですが、もっと大きな作品を作りたくなって人手が足りない時、夫もスケジュールが合わないし、友達にも頼める人がいないという状況になっても心強い。あと、作品の撮影時に、カメラマン以外で絵を運ぶ人が必要な場合もあって、紹介してもらえたら嬉しいですね。自分が子育て終わったら、助ける側になれると思いますし。作業時間は数時間程度の拘束で済むので、交通費とかお茶代に個人的に少し上乗せして支払うくらいなら利用しやすいと思います。

あと、これは FAS にということではなくて、社会全体に対しての希望なのですが、誰にでも子育てや介護など、誰かのために自分の時間が割かれるということは起こりえるはずなので、どんな作家でも制作に対して開かれていることが実感できる社会になると嬉しいですね。例えば、コンペの応募資格に 40 歳以下というふうに線引きがあると、パタパタしてるうちにリミットが来て、追い詰められたり、何も出来なかったと凹んだりするので、せめてその線引をなくすコンペが増えるだけでも心理的には救われます。

タイミング的に今はできないことがあって罪悪感をもっている人に対して、「今はそれで大丈夫。次が絶対あるから。」というような社会的な理解と応援があると制作が続けやすいと思います。

19 お子さんの手が離れたら、どのように活動をしていきたいですか？

取材も制作も時間を増やして、発表も積極的に行きたい。その延長でアーティスト・イン・レジデンスに行ってみたいなと思います。今、日本の土地や地形が気になっているんです。あと、古事記を読み始めたんですが、山陰や九州の神話に出てくるような場所って地形も面白かったりするので、現地に行って、スケッチを取ったりしてみたいですね。古典から着想を得て地質や地形と絡めながら描くのは楽しそうだなと思っていますところなんです。



ARTIST NO KOSODATE? / Interview / No.06

ARTIST
NO
KOSODATE?

アーティスト
の
子育て

01 住まい 神奈川県

02 年齢 40代

03 性別 男性

04 子どもの数 2人

05 子どもの年齢 8歳、3歳

06 作家活動以外に仕事をされている方は、
可能な範囲でお仕事の内容を教えてください。

庭木の剪定など、植木業をやっています。制作が忙しい時は週3日くらい、多い時は週6日くらい働いていますが、実際には雨で流れることもあります。仕事は個人事業主として請け負っています。

県内はじめ、都内や埼玉、千葉へも出かけていくので移動時間がかかり、朝6時頃家を出て、夜の7時頃に帰宅することも多いです。

07 保育園・幼稚園などの保育サービスを利用していますか？
または過去に利用しましたか？ はい いいえ

08 (07)が「はい」の場合、預け先は？

保育園 通常保育 一時保育・ 認可 認可外 幼稚園 ファミリーサポートセンター
 その他

子ども二人とも、保育園や幼稚園には入園申請せず、自主保育を選びました。

年齢によって実施回数は違いますが、今3歳の子は、週に3回、9時半から13時半くらいまで行っています。出かける場所は毎回違って、保育士一人と保護者が子どもたちを引率して、山登りなどの野外活動をしています。

保育園や幼稚園に預けると、子どもが何をやっているか把握できなくなってしまうので、小学校に入るまでは一緒にいる時間を大切にしたいという思いから自主保育を選びました。ただ、子どもと一緒にいる時間が長くなるので、その状況で作品を制作していくのは大変です。

09 お子さんをもった後、作品制作時間はどう捻出していますか？〈複数回答可〉

保育園や学校に行っている間 睡眠時間を削る 子どもが寝てから 早朝 実家・親に預ける
 配偶者に預ける 仕事の合間 仕事が休みの日 捻出できない その他

第一子の時は、子どもと一緒に夜9時頃に寝て、忙しい時は夜中2時頃に起きて朝6時頃まで作品を制作し、それから仕事に行ったりしてました。それと、仕事は割と自由がきいて、あらかじめ自分で休む日を決められるので、制作に合わせて出勤日を調整し、仕事が休みの日に制作していました。自分の作品はとにかく時間がかかるので、制作時間の捻出は大切です。子どもの面倒は妻にみてもらうことが多いですが、妻も自分も忙しい時

は、話し合いで午前と午後で交代して、午前は制作して午後は子どもを見ることもあります。妻が忙しくなければ、自分は制作を優先させてもらうことが多くて、制作の合間にちょっとご飯作ったりとか洗濯物をたたんだりとか、できることを手伝っています。そして、よっぽど忙しくない限り、毎週日曜日は制作しないで、ずっと子どもと一緒に過ごしています。

**10 一日のうちで、①育児にかかる時間、②作家活動にかかる時間、③作家活動以外の仕事にかかる時間は、お子さんをもつ前と現在とではどう変わりましたか？
およその時間を教えてください。**

① 育児：0時間 → 平日2～5時間、休日17時間

② 作家：0～17時間 → 1～10時間

③ 仕事：13時間 → 13時間

作家活動の時間は、考えてみれば子どもが生まれてからの方が長いかもしれません。制作に対する思い入れが、子どもが生まれてからの方が強くなっているからです。それまでは自由過ぎたり制約がなさ過ぎたりして、映画を見たり、山に登ったり、ヨットに乗ったりと娯楽に費やす時間も長く、制作に集中する時はするけれど、しない時は全くしないという感じでした。でも今は違いますね。今は暇さえあれば制作しています。

11 お子さんをもった後、作品制作の環境(場所)は変わりましたか？

変わりました。第一子が生まれることが分かって、今の家を探して引っ越してきました。改装してもよいという物件だったので、3畳くらいのスペースの部屋を5畳くらいに広げるようにして自分で壁を作って、自宅内にアトリエを整えました。

自宅が狭いこともあり、作品保管場所としては屋外にレンタルボックスが設置されている倉庫を借りています。2階建てのうち1階で木の陰になっていることもあって、特に作品がダメージを受けたことはありません。真夏の日中に倉庫に入っても、むわっと暑いということは今までありません。自宅にしまい込んでしまうと、海が近くて塩分とか湿気が多いので、かえって環境がよくないかもしれません。

12 お子さんの存在が作品に影響し、作風や扱う素材、制作方法などは変わりましたか？

テーマも素材も変わりません。シルクスクリーンで何度も版を重ねて作品をつくっています。でも子どもが生まれたからこそ、自分を追い込んで、すごく大変な目標を設定して制作に取り組みました。子どもが生まれたことで制作ができなくなるのが嫌で、ちょっと意地になって自分にハードルの高い課題を課して、手間をかけて作った最初の作品はすごくいいのができました。それまでは版を重ねても5,000回足らずがせいぜい。子どもが生まれてから最初に作った作品は10,000回刷っています。それは実際の山に行けないということも理由にあると思います。子どもが生まれてからは一貫して、山に登るように山頂を目指して作品を作っていて、作品サイズも大きくなりました。子どもが生まれたことで、向かうべきところがはっきりしたというか、力の注ぎ先を一手に集中させることができました。

13 コロナ禍が子育て中の制作に何か影響を及ぼしましたか？

コロナ禍の影響で、予定されていた展覧会がなくなったり延期になったりしました。でも、子育てに関しては特に不便は感じません。人混みを避けるといっても、歩いてすぐ海にも行けますし。

第一子が小学校に入学する時にコロナが流行りだして、入学時期が2か月くらい遅れたことはありました。でも、生活としてはそれまでと変わらないので大丈夫でした。

一家全員コロナにかかった時は10日間隔離でずっと家において、当初は窮屈かなと思っていたんですが、2日間

くらいで体調も戻ったら、意外にもこの隔離期間が一番集中して作品制作に向かうことができました。外出できないのであきらめがついたんですね。外に出ないので体は休まるし、子どもたちは兄弟で遊ばせて何とかなるし、食料も何人かの友達が持ってきてくれて、いつもより豪華な食卓でした（笑）。

14 子育て中の制作において、どのような工夫をしていますか？

都内での打ち合わせや、制作の材料を買いに行く際などに子ども連れでも大丈夫な状況であれば連れていきます。作品の制作手順は、最初に全体の構成を決めてしまえば、あとは考えるというよりは手を動かす作業になります。作業の段階になれば、自宅内のアトリエに子どもがちょろちょろ入ってきてもそんなに邪魔にはならないのですが、インクを使っている時や版を洗ったりする時はとても臭いがきついです、その時だけは入っちゃダメと言ってます。第一子には、1歳ごろから制作の時は邪魔しちゃだめだとすごく強く言い聞かせていました。だからあのやんちゃな子が制作時は邪魔しないし、作品関係のものは触りません。第二子はそんなに言い聞かせなかったからアトリエにも入ってきたりしますけどね。

小さいと昼寝するからいいのだけれど、3歳ころになると寝なくなるから、たくさん体を動かして遊ばせて、疲れさせて寝るようにします。やっぱり子どもが寝てる時が一番制作できる時間です。

15 子育て中の制作について身近に相談できるアーティスト仲間等はいますか？

特に相談はしません。

知り合いの男性アーティストで子どもが3人いる人がいて、妻が子育てで大変で精神的に追い込まれ、子どもにちょっと強く当たってるというような人の話は聞くことがあるけれど、自分から相談することはないですね。妻は産後鬱になったんですが、そういう時はそばに居てもだめだし居なくてもだめ。難しいんですよね。生後すぐだと子どもと離すこともできない。睡眠不足が原因になることが多いので、なるべく寝られるように、夜中ミルクをあげたりして少し手伝いはしました。

16 今現在、作家活動をするとしたら、どのようなことをやってみたいですか。

リサーチ 制作 展示 ワークショップ アーティスト・イン・レジデンス その他

どれもやりたいし、やっていますね。日常から離れてやりにくい環境に身を置くと、自分が考えたこともなかった作品が出来上がったりする。不便なところにあえて行くことで新たな発見がある。そういう面白さがあるので、期待をもってレジデンスにも行きます。

山に登って山中で絵を描いたこともあって、大概そういう時はいい作品が生まれる気がします。シンガポールに行った時も、展示会場で制作してたんですが、インクを現地調達したらとても質が悪く、伸び縮みが激しくて、次の日見たらバッキバキに割れててひどかったんですが、それはそれで面白かったので、またそのインクが欲しいなと思ってます。

17 作品制作を継続するためには何が必要だと考えますか？ 特に優先順位の高いと思うものを2つ選択してください。

家族の協力 ひとりの時間 収入 美術に関する仕事への就労 仲間の存在 その他

家族、とくに妻の協力がなくて作品は作れないですね。

18 FAS にどのようなサービス・支援・配慮があれば、 子育て中の作家活動がよりスムーズにいくと思いますか。

最近、同級生がギャラリースペースを作って、そこで友達が展示したので見に行ったんですが、見に来ている人が子育て世代で、子どもがいっぱいいました。芝生があって、子どもたちが遊べる空間があったのと、みんなが「〇〇やっちゃダメ」って言わないのでとても楽でした。子どもたちも紙飛行機を飛ばしたり落書きしたり楽しく過ごしていました。子どもの動きを止めてしまうと、子どもが不機嫌になってしまうけれど、自由にできるスペース、遊べるスペースがあると親は楽でいいですね。

美術館は子どもが楽しめないから一緒に行かないです。監視の人に絶対目をつけられて、ちょっとなんかあると「お子様と手をつないでください」って言われたりして居心地が悪い。子どもに「ダメ」って言わないでいい環境をどう作るかですね。

イケアは、遊具がある場所に無料で1時間、4～10歳の子どもを預けられていいですよ。

FASに例えば子どもに工作をさせるスペースがあればいいかもしれないですね。子どもはやっぱり何かを作るのが好き。何かに熱中できるスペースがあると、そばで制作するにしてもはかどります。何もないと、1時間くらいならともかく、3、4時間はもたないですから。

19 お子さんの手が離れたら、どのように活動をしていきたいですか？

小学校高学年にもなると、もう手がかからなくなるだろうから、今まで封印していた山登りなどの趣味を始めたいですね。その時に体力があるかというのはあるけれど。